

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

中国トン族「鼓楼」の文化的機能について： 堂安寨と岩洞寨の事例から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): 中国少数民族, トン族, 鼓楼, 大歌 キーワード (En): 作成者: 牛, 承彪 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00006082

中国トン族「鼓楼」の文化的機能について

— 堂安寨と岩洞寨の事例から —

牛 承 彪

要 旨

これまで「鼓楼」の機能については、主として「鼓楼」の実用性によってまとめられてきた。機能として挙げられた項目の中に既に消失したものもあり、一部の地域でしか行われていないものもある。今日の「鼓楼」の機能について言及する時、現状に基づいて考察しなければならない。またこれまでは「鼓楼」で行われた行事の内容（歌も含めて）と関連させた研究も行われていない。

本稿では、現在「鼓楼」で行われた行事、行事で歌われた「讚鼓楼」と「祭薩歌」、「鼓楼」に書かれた詩句、「鼓楼」の絵画などを通して、「鼓楼」の機能と関係する事柄を分析した。現在の「鼓楼」は主として文化的な役割を果たしていること、「鼓楼」は人間と神がともにいられる神殿的空間であること、「鼓楼」で行われる行事は人間と神がともに楽しむものであること、「鼓楼」には人々の信仰・観念・世界観・願望など、様々な精神的要素が凝縮されていることを述べた。

キーワード：中国少数民族、トン族、鼓楼、大歌

トン族は主として中国の貴州省、湖南省、広西チワン族自治区に隣接した地域に分布しており、貴州省黔東南苗族侗族自治州に最も多く居住している。古代から稲作が行われた「百越」系統の民族として知られ、都会から離れた山間部では伝統文化が比較的多く継承されている。その伝統文化のなかで最も有名なのは「大歌」であり、2009年に世界無形文化遺産として登録された。その「大歌」が歌われる舞台がすなわち「鼓楼」である。「鼓楼」はトン族の村において、もっとも魅力的な建造物であり、トン族の文化を象徴するものでもある。「鼓楼」をめぐるこれまでの研究は、歴史的事項に重心を置いたものが多く、今日の状況について言及したものは少ない。また「大歌」との関連に注目した研究もほとんどみられない。本稿では先行研究を踏まえながら、これまでの筆者による現地調査に基づき¹、「鼓楼」で歌われた歌の一つの手がかりとして、現在における「鼓楼」の文化的機能について考察を行う。

第一節 「鼓楼」の呼称

「鼓楼」は文字通り、鼓が置かれた楼閣のことである。『近代漢語大詞典』²では「鼓楼」に

ついで次のように解釈している。

置鼓之楼，用以报警、报时。宋・孔平仲《孔氏谈苑・封置鼓楼》：“齐李崇为兖州刺史，州多盗。崇乃村置一楼，楼悬一鼓，盗发之处，槌鼓乱击，诸村始闻者，国故挝鼓一通，次闻者，复挝以为节，俄顷之间，声布百里，付其险要，无不擒获。诸村置鼓楼，自此始也”³。

「鼓楼」は警報と時刻を知らせるためのものであり、北宋の孔平仲（生没年不詳）は『孔氏談苑』（『四庫全書』に収録）で、当時兖州（現在の山東省東南部）の各村に設置された「鼓楼」について、南北朝の李崇（454-525）が地方長官を務めた時、盗賊をとらえるための対応策として設けたのが最初であるとしている。

古代において、トン族が「鼓楼」をどのように呼んだのか、記録に残っていないが、現在、またはごく最近まで使われていた呼称は地域によってさまざまである⁴。

- 「亮亭」（漢音では「liang ting」）：広西三江県林溪一帯。
- 「公棚」（漢音では「gong peng」）：広西三江県里南寨村一帯。
- 「長楼」（漢音では「chang lou」）：広西龍勝県平等郷龍坪・坪熬一帯。
- 「街棚」（漢音では「jie peng」）：広西龍勝県楽江郷石京・石甲一帯。
- 「務楼」（漢音では「wu lou」）：広西龍勝県平等一帯。
- 「堂韶」（漢音では「tang shao」）：広西龍勝県平等郷広南一帯。
- 「底楼」（トン音では「dees louc」）：貴州省黎平県岩洞郷一帯。
- 「楼」（トン音では「louc」）：貴州省岩洞郷・双江郷黄崗一帯。
- 「百」（漢音では「bai」）：榕江県車寨一帯。
- 「本楼」（トン音では「beengh louc」）：榕江県一帯。
- 「根」（トン音では「gemv」）：從江県朝利洞一帯。
- 「涼亭」（漢音は「liang ting」）：湖南省通道県一帯⁵。

「亮亭」は美しい東屋の意。「公棚」は衆人が建てた東屋の意。「長楼」は年配者の楼閣の意。「街棚」は村の外れにある東屋の意。「務楼」は高い場所に建てた楼閣の意。「堂韶」はみんなが発言する権利がある場所の意。「底楼」は楼閣の下の意。「楼」は楼閣の意。「百」は積み上げるの意。「本楼」は高い建物の意。「根」は東屋、または三階以下の鼓楼の意。「涼亭」は涼むための東屋の意。

呼称の内容からわかるのは、その多くは漢語の影響を受けたことである。「亭」「棚」「楼」はいずれも漢語から来たもので、もともと屋根のある建物を意味する。純粋なトン語による呼称は「百」・「堂韶」・「根」の三つである。しかしこれらの呼称にはいずれも「鼓」を意味する言葉が入っていない。現在一般的に使われている「鼓楼」は、トン族の村に存在するこの建造物について、外部から名付けられたものである。

第二節 「鼓楼」の歴史

文献上、トン族の「鼓楼」について記載された最も古い記録は、明末の鄭露（1604～1650）によって編まれた『赤雅』である。

罗汉楼，以巨木一株，埋地作独脚楼。高百尺，烧五色瓦覆之。望之若锦鳞然，攀男子歌唱饮噉，夜归，缘宿其上，以此自豪⁶。

「羅漢」は若い男性を意味する言葉で、トン音の当て字である。一本の柱を立てて作ったとしているが、屋根に「五色」の瓦が葺かれたとあるので、現在の黎平県岩洞郷述洞の「鼓楼」のように中心に主な重量を支える一本太い柱を立て、その周りに分散した重量を支える数本の柱を持った構造だろう。若者が登って歌を歌ったり、飲食したり、夜は上で寝たといっている。現在の述洞では杉の木を真似して「鼓楼」を作った伝説はあるが、若者が登って飲食した言い伝えはない。ほかの地域においても、この記載で書かれた現象は見られない。その時代の「鼓楼」の機能の一つと見ていいだろう。

現在の「鼓楼」に近い様子を描いたものは、清代嘉慶年間（1796－1820）陳浩（生没年不詳）によって書かれた『八十二種苗図併説』（通称は『百苗図』）の絵、及びその解説である⁷。原書第七十七図「黒楼苗」について次のように解説している。

清江、八寨有之。邻近诸寨于高坦处造一楼，高数层。用一木杆，长丈许，[挖]空，悬于[顶层]，名“长鼓”。凡有不平之事，即登楼击之。各寨相闻，俱带长镖、利刃，齐至楼下，听寨长判之。有事之家备牛酒[以酬]，如击鼓不到，罚牛一只，以作公用。[若无故动长鼓者，罚牛一头，存为公]⁸。

絵には、村の入り口と思われる山間に「鼓楼」が描かれ、手前のやや広い場所に一匹の牛とそれを囲む六人の男性が描かれている（中の三人は長い槍を持っている）。「鼓楼」は三階建てで、最上階には一人の男性が立ち、片手を挙げている（鼓は見えない）。解説文には「鼓楼」という言葉こそ使っていないが、鼓が設置されたことと、この建造物の機能について紹介している。「不平」なことがあれば、「鼓楼」に設置された鼓を叩いて人々を寄せ集め、村の長老の裁断を聞くのである。しかし様々な武器を携帯して集まるということは、武力的行動を伴う場合もあったことを物語る。歴史上、外敵を追い払うために村人を「鼓楼」に集め、軍事的施設として利用した事例は、近代の軍閥混戦期と民国期のものが人々の記憶に残っている⁹。『百苗



図：『黔苗図』『黒楼苗』（湖南省博物館蔵）

図』に描かれた「鼓楼」とまったく同じ形のもが現在でも見られ¹⁰、古くはこのような三階建の「鼓楼」が一般的だったのだろう。

現在トン族地域の「鼓楼」の数は、2000年の統計では673棟になっている。その中で歴史が古いのは、貴州省玉屏県街頭鼓楼（1403～1424年）、貴州省岩洞郷述洞独柱鼓楼（1636年）、湖南省通道県馬田寨鼓楼（1644～1661年）、貴州省從江県増冲鼓楼（1672年）であり、18世紀に建てたものが30棟、19世紀に建てたものが95棟ある。大部分は20世紀に建てられたものである¹¹。

文献に記録されたものに比べて、実物のほうが数多く、時代的にも古い。火災や老化などが原因で消失したものが多く、「鼓楼」が歴史上、トン族の村で建て始められた時代はさらに遡ることができるだろう。

第三節 「鼓楼」の文化的機能

古代から現在に至る「鼓楼」の機能は、早い時期から研究者に注目され、様々な角度から分析が行われてきた。『中国侗族鼓楼』では、これまで上げられてきた機能を次の五つにまとめている。

- [1] 政治的機能。重要な内容としては「款」制度を挙げている。トン族が外敵の侵攻から防御するために宗族連合体¹²を結成する必要がある、普段の生活の中で発生した宗族間のトラブルを解決、または回避するために、共同で守るべきルールを決めなければならない。宗族連合体は「款」であり、決まったルールが「款約」である。この連合体組織を結成したり、法律的な効力を持つ「款約」を公表したりする場所が「鼓楼」である。宗族内部の重要な事を決めたり、公表したり、もめ事を解決したりするときも「鼓楼」で行われた。
- [2] 軍事的機能。外敵がせめて来たとき、「鼓楼」は群衆が集合する場所であり、戦を指揮する軍事施設として使われた。
- [3] 文化教育機能。「侗書」「呪語」を伝承する場所、「侗歌」「侗戲」を習う場所、「芦笙」「舞蹈」を行う場所、様々な現代教育の「教室」として使われた。
- [4] 体育娯楽機能。「鼓楼」の前の広場で民族的行事や遊び（獅子舞（「舞獅子」）・龍舞（「耍龙灯」）・武術・闘牛・田遊び（「舞春牛」）など）が行われた。
- [5] 宗教的機能。「鼓楼」に対する信仰が存在し、それにかかわる信仰活動を行う舞台になっていた。

上述の機能の中、すでに消失したものや一部の地域でしか行われぬものがあるなど、トン族地域において普遍的に存在するものではない。「款」や「款約」の場合、平和な時代になってからはその組織も関係行事もほとんどなくなっている。政府機関が昔の宗族連合体に取って代わって機能し、国や地方で定めた法律・法令が「款約」の代わりをしている。筆者の調査

地である岩洞では、村の秩序や道徳に関係する事柄を論議するときはやはり「鼓楼」を利用している。政治的機能が完全になくなったわけでもない。軍事的機能は戦乱の多かった時代のことで、今はこの機能は完全に消失している。警報を知らせるための鼓も、ほとんどの地域の「鼓楼」には見えず、たまに飾りとして鼓が設置されているのを見かけるぐらいである。「侗書」「呪語」を伝承するのは昔のことで、「侗歌」「侗戯」「芦笙」「舞蹈」「教室」の場として使われたのもすべてのトン族地域ではない。私の調査地である黎平県では村同士が訪問する「月也」の時、歓迎の儀式を行う場として、そして夜に行われる歌の掛け合いの場として使われている。また春節期間中、村の守護神である「薩 (sax)」を祭る場として、夜に歌の掛け合いを行う場所として使われている。体育娯楽活動は「鼓楼」の外の広場で行われた場合が多く、「鼓楼」と直接的には関係しない。しかし「鼓楼」は普段でも老人たちが集まってのんびりと過ごす場所であったり、「大歌」を伝授する場所であったりするので、間違いとはいえない。宗教的機能は、過去に比べてずいぶん弱くなったが、まだ存在している。黄才貴「黎平県肇興郷侗族鼓楼調査」¹³では、宗教的機能として「鼓楼」で村の長老の葬式を行った事例をあげているが、これは特殊なケースであり、ほかの地域では聞かない。『鼓楼・風雨橋』¹⁴では、村の環境や地形に合わせて「鼓楼」の位置・高さ・形などを決めるといった風水観念の存在を提示しているが、現在においても、「鼓楼」は風水と関係があるという意識は普遍的に存在する。

筆者の実地調査に基づけば、現在における「鼓楼」の機能は大きく四つに分けられる。

- [1] 毎年の旧正月に行われる「祭薩」や歌の掛け合いをする場。
- [2] 不定期的に行われる村同士の親睦訪問行事「月也」の歓迎儀式や歌の掛け合いをする場。
- [3] 普段の生活における休憩や歌を伝授する場。
- [4] 村の「風水」を守るための仕掛け。

しかしこのような状況も経済発展や観光化の進行にしたがって、大きく変化しようとしている。ここでは堂安寨と岩洞寨の事例を取り上げ、現在の状況を見ることにする。

【一】堂安寨の「祭薩」と「鼓楼」

堂安寨は貴州省黎平県南部に位置する村である。181戸、774人の人口で成り立っている。トン族の中では小規模の村である。村民の姓には、陸、嬴、蘭、石、呉、楊、潘がある。年代ははっきりわからないが、山の麓の肇興寨からこちらに移り住んだという¹⁵。村の人口の増加による「分流」である。堂安寨は山の中腹の比較的傾斜の平らなところに位置し、その下の斜面と上の斜面は棚田になっている。村のほぼ中心部に「鼓楼」があり、この場所は



写真①：堂安寨の「鼓楼」（2004年筆者による撮影）

村の中ではやや開けた空間である。「鼓楼」のすぐ横には石で作られた小さい廟があり、「公公」(神)¹⁶が祭られている。「鼓楼」の上の方には村の守護神を祭る「薩壇」が建てられている。「薩壇」のすぐ横に勢いよく泉が湧いている。正月の一日から「公公」の祠と「薩壇」に供え物が捧げられる。「公公」が「鼓楼」を守り、「薩」は井戸を守ってくれるという。2004年の聞き取り調査によれば、「祭薩」関係の行事は次に行われる。

正月八日の「祭薩」のほか、三月三日(昔)、八月十五日、九月九日にも歌の掛け合いをする。これらの期日はいずれもトン族の伝統的な祭日で、ほかの村の女性「歌班」(歌のチーム)を招き、村の男性チームと歌の掛け合いを繰り広げる。「祭薩」を行ってから、「鼓楼」で「踩堂歌」を歌う。手を繋いで「鼓楼」の中を回り、手を軽く上げながら歌うのが特徴である。音楽面の特徴からその時に歌う歌を「多耶」と呼んだり、「踩堂歌調」と呼んだりしている。「鼓楼」の真ん中に村の長老たちが椅子に腰を掛け、それを囲む形で、内側は女性チーム、外側は男性チームになっている。

正月八日の行事の内容及び順序は以下の通りである。

[1] 「祭薩」を行う「薩壇」の前で、男の「歌師」は歌を2首歌って「薩」を降臨させる。そして「歌師」を先頭にし、「薩壇」を管理する長老が「薩」を背負い、村人がそれに続いて村を一周して、再び「鼓楼」に戻る。このとき神の依代よりしろとして半開きの傘を使うが、一周した後、傘を「鼓楼」の椅子の上に置く。そして「鼓楼」の中で、行事が以下のように進む。

[2] 娘たちは歌を2首歌う(省略して歌わない場合もある)。

[3] 男女の歌の掛け合いをする。

[4] 大歌を歌う。

[5] 別れの歌を歌う。

[3]と[4]には様々な内容のものがあるので、数日かかって歌い続ける。[3]の歌の掛け合いの初めに、女性チームから、訪問先の村を誉めたり、「鼓楼」を誉めたり、招待を感謝したりする内容の歌を歌う。堂安寨に伝わる「讚鼓楼」は以下の通りである。

トン語原文: 1, Jangv liangc daengv banc saip saemh naih/ Dadl bial gaos yaih xaok weex biingc/ Yidx jaol saoh kgods buix saip longv/ Padt guangl liok liok buh yiul xaok weex leemc/ Senp naih biingc biingc laox weex kaik/ xangp laox qamt xaih wanp douh bail deic hup/ Senp gaeml dangc xeih yiul jais laox xaok kat/ lagx gax daengl touk yiul jais laox bail xup/ Senp gaeml senp gax kat bingc genh/ Is Yangh liangx xuit lis aenv/ Louk duc mungx kgaox ngac/ 2, diiml louc qak menl senp xaih bus/ jungh lagx jangl kgus xah laot maoh yangv jangc / senp lial wac benh maenh aol dos/ yav kgah meec nal lial dah dangc/ ogs guanl bail kuantg daengc kgah siik wangp nanl/ lagx yix weex louc buh yiul nyemp laox kgangs/ sedt map songp biaoc buh yiul

laos sait namc/ xaih naih gaos longl qongp daengl meix pagt laox / daol gaenx songp jaeml qak
 jenc yuh deic kganc / nungx jih unl saoh/ mungx bems mungx gaic pagt laox maoh xuh baengl/
 lagx yix onl semp nyenc laox xuh onl dens / pagt sot dos soh gaic dah kgah miangl map/ kgeis
 yongh dos sinc laos kgaox das bail wouk/ dongh mas dongh heek xedt onl map / beenv mags
 bennv heekdiibx beengc bongc/ meixxedt touk yanc bans qings chux/ yuh jais laox sanghdaengh
 beec leec/ jeml dangc mogc dangcsaoih louc mags/ nyinc naih daol haos weenh nyinc jangc/
 一wap wap jees jees buh kgeis xaot/ nnaih daol senp xaih diiml louc/ kgeis bail douh xangk
 mangc/ xah luoh liangc semh meix yaemx/naengc meec gueec heenk bangh noup xedt ao map/
 diiuc sodp nayoh pangp xah lagx hank/ banl miegs lagx hank yiux gkeenp ogs bianv seit liongc
 gual/ banl miegs lagx hank xah jongs taot jonh dangc/ guiv jul samp baos daih guil guil/ seip
 naengc xaih daol lail kgangs yangh/ nyenc laox lagx yix xaenk gaos kap/ maengx nal wap duiv
 buh/ hongt linc lail louh daol xuh lah liongc xenc /guungl eenv mong wap yangv mangv guangl/
 nadl nadl laot yangh kgol liuh liuh/ dah liail bail naengc xah jongs kgaenv lagx liongc/ naih daol
 diiml dal bail biv / siik wangp naengc qak loih / louc naih nyanegc xah lail louh muc /daengc
 kgah jus dongh nyenc sedt bus/ kgah sedp baov naenl louc naih pangp/ daengc kgah logc jac
 yac mangv sedt gaenx guih/ daengc kgah mul xiul guiv max/buh xedt nyemp daol maengx
 yangc yangc/ diiml dal bail biv nis miinh wangc sut/ nuvsaip maenl mangc buh buh baol lail/
 saip nyaenc daengl bangs dos wagx xangh/ yah gaenx jangl kap dos meix kgal naih bus / naengl
 meec dih bas gas kgah gaos jih/ buh xedt maengx weec weec/ yis maenl gods wox samp denv
 diaengv/ kgeis lis mungx noup lail wap map daengv/ lenc maoh deic map bus beengh louc¹⁷

日本語訳：1、ジャンリャン¹⁸はわたしたちに命を与えてくれた/2、でこぼこの道を平らに削り
 /3、一本の藤で固い結び目を作る/4、素晴らしいと（いい名声で）知られていない「六洞」¹⁹であ
 っても、今に立て直す/5、この村がいい生活できても年配の方を壁に（「頼る」意）しなければなら
 ない/6、地位の高い人が出かけるときは付き添う人が物を持ってくれる/7、トン族にかかわるトラ
 ブルはあなた様が排除してくれる/8、漢族が物言いにきてもあなた様が收拾してくれる/9、漢族と
 トン族のトラブルはいずれも平穩に処理し/10、めでたい日に試験に合格して証書をもらう/11、ま
 るで朝廷の官のように/12、「鼓楼」を立てた大工を人々は誉める/13、同じく村の子弟なのに彼は
 なぜこんなに頭がいいかと/14、みんながお金を出して「鼓楼」を立てても、家は裕福だよ/15、「公
 田」の穀物は食べきれない/16、この美名を四方に伝えよう/17、若者が「鼓楼」を立てようと
 しても年配者と相談しなければならない/18、年配者も若者も何かことをするときにはみんなの賛同を
 得なければならない/19、森の木を切って「鼓楼」を建てる/20、みんなが誘い合って山に登る/21、
 天秤棒を担ぐ人がいれば/22、鉄のリベットを持つ人もいる/23、曳く人がいれば切る人がいる/24、
 杉の木を倒し/25、子供は短い柱を担ぎ大人は長い柱を担ぐ/26、木が乾燥すれば運びに行き、溝

に沿って前へ引く/27、お金を出して買わなくても森で見つけられる/28、大きい柱小さい柱は全部運んできた/29、大きい板小さい板は山のようになり、杉の木を村に運んできた/30、この仕事は見事に終わった/31、先生²⁰に頼んでいい日を選び、悪い日を避け/32、いい時刻に「鼓楼」を建てる/33、一年よければ万年もよくなる/34、右のことを考えなくてもいい、左のことを考えなくてもいい/35、今「鼓楼」は立てられた/36、わたしは何も考えることはない/37、あとに残った頂の梁は「美彦」の木を選ばなければならない/38、木の板が幾千幾万あるが、どれでもいい/39、ただひとつの頂上の柱を立てるのはお兄さんだけだ/40、お兄さんとお姉さんたちが田に行けば一匹の雄の龍のようだ/41、お兄さんとお姉さんたちが一列のソウギョのように見える/42、若い人は付近の村々に散り、貴州全体を覆う/43、ゆっくり村を眺めれば格別に美しい/44、子供を持つ男と女の頭と耳は/45、季節に合って咲いた花のようだ/46、小龍はすばらしい蜂の巣（「鼓楼」最上部の天井）が好きになり/47、窓の格子を右につければ内と外は光る/48、横の格子と縦の格子はどれも同じ/49、同じ形の格子の影は龍の鱗のようにみえる/50、いま顔を上げてみれば/51、（龍の）四つの足八つの爪が動いている/52、顔を横に見れば（意味不明）みんな誉めている/53、「九洞」²¹ではみんなが言う/54、この「鼓楼」は高く立てたと/55、「リュジャ」と「ナユ」²²では伝えている/56、「ムシウ」と「グイマ」²³はわたしたちのために喜びの歓声を上げている /57、顔を上げて（「鼓楼」を）みれば月の神様のようだ/58、大人たちよ、素晴らしいと思えばお金を出してください/59、人々は一緒にこの誉めたたえる歌を聞く/60、後はわたしたち娘たちが山に残って居るだけ/61、喜ぶことはできない/62、一日は三回ご飯をいっぱい食べることにしか知らず/63、みんなはにぎやかな話題を作るけれど/64、私たちは「鼓楼」を誉める能力はない²⁴

引用した歌は少し長いが、ここから多くの情報を知ることができる。

[1] 歌は二つの部分からなっている。前の部分（1～11）ではトラブルを解決することを通して村の老人を誉め讃え、後ろの部分（12～64）では村の大工、「みんな」、若者、年輩者、子供、「先生」が協力しあって「鼓楼」を建てる過程を述べている。この歌について、調査対象者の話では、村の人々を誉めるものだという。表現法として、トラブル解消と「鼓楼」を建てる過程を述べるという二つの題材を用いて、村人を誉める効果を作り出している。

[2] 「鼓楼」を誉めるため、「鼓楼」が建てられた過程を詳細に述べるという表現手法は、日本や中国の稲作生産叙事歌謡²⁵の中、お膳やお酒を、その場に相応しいものとして神聖化、或いは正当化する目的で、種まきから収穫まで、あるいは酒造りまでの過程を述べる歌と発想及び機能までが類似している。この歌は「鼓楼建築叙事歌謡」ともいうことができ、機能においても「鼓楼」を神聖なものとして誉め讃えるものであると言える。

[3] 人々を誉め讃える豊富な内容が含まれている。「鼓楼」を建てる過程に見られる村人の勤勉さ、利口さがあり、団結精神、協調性があり、年輩者を尊重し、平和を願う村の良好

な社会風習がある。さらにそれについてしかるべき敬意を抱いている歌手の気持ちを、相手に伝える意味も含まれている。一つの「鼓楼」を誉めることを通して、共同作業に参加する人々を誉め、よって村全体の人々を誉め、さらにその村社会を誉めている。

[4] 「素晴らしいと(いい名声で)知られていない[六洞]」の具体的意味は不明だが、「名声」を重んじることは十分伺うことができる。「この美名を四方に伝えよう」、「[九洞]ではみんな言う」、「この「鼓楼」は高く立てたと」[リュジャ]と[ナユ]・[ムシュウ]と[グイマ]では伝えている」の歌詞からもわかるように、素晴らしい「鼓楼」を建てるのはまさにその名声を得ることである。

[5] 「龍」に関する表現が数回現われる。「お兄さんとお姉さんたちが田に行けば一匹の雄の龍のようだ」は若い男女の群れを龍に譬えているが、ほかの表現には意味がある。「小龍はすばらしい蜂の巣が好きになり」「窓の格子を右につければ内と外は光る」「横の格子縦の格子はどれも同じ」「同じ形の格子の影は龍の鱗のようにみえる」「いま顔を上げてみれば」「四つの足八つの爪が動いている」



写真②：堂安寨の「踩堂歌」(2012年筆者による撮影)

の表現は、単なる比喻とも受け取れるが、「鼓楼」は龍を呼び寄せる仕掛けとして建てたことを物語る。

以上は2004年の聞き取り調査で分かったことで、その当時、もしくはその以前の状況を反映したものである。2012年には実際の正月行事を調査したが、様子はずいぶん変わっていた。「薩壇」で「祭薩」儀式を行ったあと、参加者が村を一周することなく、そのまま「鼓楼」へ移動して「踩歌堂」を行った。また夜の「鼓楼大歌」も行われなかった。「薩」を象徴する傘も「薩壇」に残したままで、「鼓楼」へ移動しなかった。

行事が終了後、「踩堂歌」を歌った方を訪ね、話を聞いた。現在は以前のように、「歌師」のところを通いながら歌を習う若者はいないという。行事に参加した中学生の女の子にも会い、客を迎えるための「攔路歌」を数首歌ってもらったが、これも学校で習ったものであるという。テレビやインターネットの普及で、本来伝統文化を受け継ぐべき若者が外部の文化に染まり、自分たちの文化に興味を感じなくなったのである。

【二】岩洞寨四洲の「祭薩」と「鼓楼」

黎平県南西部に位置する岩洞寨はおよそ800戸、人口3,600余りの比較的大きい村である²⁶。村の人口の90%が呉姓であるが、いくつかの宗族に分かれ、川の両側に居住している。川の東には「龍寨」「腊南」「高记扒」「公登」「登務」(同じ宗族が住んでいる場所の名称)があり、

川の西には「沙涛」、川の南西には「四洲」（さらに「上爪」「下爪」に分かれている）がある。2003年・2004年の聞き取り調査によると、岩洞寨の「薩」関係の行事は次のように行われる。

正月一日、「祭薩」を行った後、新しい服を着た村人が村を廻る。「薩」堂を守る老人がリードするのだが、老人は手に「茶草」と呼ばれるものをみんなに触れさせる。この草は15センチぐらいの長さで、村では薬草として使われている。村のすべての活動にまず「薩」を祭るのであるが、祭らなかった場合は必ず何か悪いことが起こる。鼻血が出たり、倒れたりすると、この草を煎じた茶を飲めば治るといふ。

正月三日の夜には「薩」を祭り、「踩歌堂」を行う。その後「鼓楼」で歌の掛け合いをする（「鼓楼大歌」行事）。四日にひき続き歌の掛け合いをする。五日のお昼は「薩屋²⁷」から供えてあったお茶を下げる。そのとき、「薩屋」管理を任された者が3首の歌を歌う。お茶を「薩屋」から「鼓楼」に移してきた時も「薩」を祭る歌を歌うが、前の歌とは内容が異なる。この日は歌の掛け合いは行われぬ。六日の朝から「鼓楼」で歌の掛け合いをする。この日は主として叙事歌や「古歌」（人間や万物の由来に関する歌）を歌う。

正月三日に行われる上爪の「祭薩」と「鼓楼大歌」は次のように進む。

[1] 「薩」を祭る。歌師によって「薩屋」で歌を3首歌う。そして「薩屋」管理者によって「薩」を「鼓楼」へ移す（半開きの傘を「鼓楼」の長椅子の上におく）。

[2] 「鼓楼」に入って歌を3首歌う。歌い手はやはり歌師。

[3] 招かれた女性チームが上爪を誉める歌を歌う。

[4] 掛け合いの歌へと進む。（掛け合いの歌は昔から伝承してきたもので、歌詞は決まっている。返す歌も同様に決まった歌詞を歌う。）

[5] 終わりの歌を歌う。

[3] の中、村を誉めたり、感謝の気持ちを述べたりする歌を歌うのだが、2001年、四洲に「鼓楼」を新しく建てたとき、龍寨の娘たちが「鼓楼」を誉めた歌は次のとおりである。

トン語原文：Dah lieuc daih luh,touk dinl tongk /Dah lieuc dinl tongp,touk jaih daoh /Tingk duc jiul gueuc denl daov baov sags ongl /Mongl nugs benl qip xil liux yak /Xangk touk samp ngeds aol bav jav diul nyaoh eis diengl /Dioul bieec dens beng,diul yiuw ganh bail kat /Das jonh saemp dongl,mongl nyis nuis jangh kuagp /Meix gas samp bav yiuw bail lah duiv yangl /Meix gal deeh saemp,yiuw bail laemp maoh unv /Dunh dos sangp diingv loh nyis bav yeml yengl /Maoh ags qup qap leis nyis bav yeml yengl /Yebx nyinc yebx nyan,anp xaop touk begs luh /Yenx nyinc yebx luh, xaos laos yuh touk tank /Wap miic aos yav diiul yiuw ganh bail xup /Tut dih jonv longl weex duc meix mal,longc jonv xanp /Laox gul jonv longl liongc jonv diinh /Seis meix baos henl jonv das loml²⁸

日本語訳：1、大通りを通ればテントウ²⁹に着く/2、テントウを通れば村道に着く/3、ブンチ³⁰の花が咲き、山一面を赤く染める/4、三月の草刈りを思い出せば、安心してられない/5、田の畔の泥土を運搬しなければならない/6、三冬を越せば雪の花が咲いて散る（冬が終わる意）/7、三枚の葉が生えた苗は植える田を探す/8、苗を早く生長させるためには、早く田に植えなければならない/9、苗が根を深く下ろし、葉を茂らせる/10、根が深く張れば葉が茂って、稲が豊作になる/11、月日が早く流れて白露になった/12、月日が川のように流れて、秋の収穫の時期になった/13、田の稲穂をすぐに刈り取ろう/14、土地（神）が山にお帰りになり、野菜は田んぼに戻る/15、ラオグ（祖先神）は山を越え、龍は宮殿に戻る/16、穀物（魂）は青々として山に戻る

この歌は龍寨の補銀香（78歳、「寨老」・「歌師」）が元の「讚鼓楼」の曲に合わせて新たに書き換えた歌詞である。歌詞の内容、響き（韻）がとてもよくできているので、人々に喜ばれ、これからも長く伝承されるだろうという。

[1] 歌詞をみると、1から3までは四洲の場所と春の季節を歌っている。歌が歌われる場のことを考えると客が村に入る道のりを述べたものと理解できるが、歌全体、特に最後の神々の帰還と合わせて考えてみれば、神が訪れる道程を歌っているものとも受けとれる。4から13までは季節の変化に合わせた草刈り、田作り、田植え、稲の成長、収穫といった一年の生産過程を述べている。14から16までは収穫が終わったあと、稲の生長を見守ってきた神々（土地の神と水を司る龍）及び稲魂が元の居場所に帰ることを語っている。この歌は稲の生産叙事歌謡そのものである。

[2] 歌のタイトルは「讚鼓楼」であるが、歌詞には「鼓楼」に関する内容が入っていない。調査対象者の話によると、元の歌の歌詞は、招待された食事、村の老人、中年、若者、子供、「鼓楼」、建物、周りの環境などを誉めるものだったという。稲の生産過程、または「鼓楼」を建てる過程を叙事したかどうかは不明であるが、おそらく堂安寨の「讚鼓楼」と同じく村を「誉める」性格のものだろう。

[3] 龍等の神々は春に村に訪れ、秋に自分の居場所に帰る。

2012年には岩洞寨の旧正月に行われた「祭薩」行事について現地調査を行った。以下はその時に分かった内容である。2003年・2004年の聞き取り調査で把握した状況に比べて、行事の期間は短縮したが、「祭薩」と「鼓楼大歌」は両方行われた。旧正月5日（1月27日）午後、岩洞寨全体の「祭薩」と「踩歌堂」を行い、夜は各「鼓楼」で「鼓楼大歌」を歌う。翌日の午後から引き続き「鼓楼大歌」行事を行い、夜に入る前に終了した（筆者は上爪の「鼓楼大歌」を調査した）。

岩洞寨全体の「祭薩」・「踩歌堂」行事は昔の「薩屋」があった場所（現在は鎮政府の前）で行い、その後招かれた女性チームはそれぞれ招待先の宗族の「鼓楼」に入って数周回り、「祭

薩歌」を歌う。上爪に招かれた沙湊の娘たちが歌った「祭薩歌」は次の通りである。

トン語原文：Muix qit menl louc senp qit dih douc kgonv / Qit naenl dih douc dos dav jul / Dih douc daol lail dos dav jaih / Qit nadl dih douh lail louh muc / Qit nadl dih douc lail lieeux xonh / jih siip maox donh lionh samp luc / lionh qit samp luc yangc nyenc jaemh/ Yangc nyenc jonv qigt sax jonv yul / Sax jih jonv jul lail lieeux yangh / Muh qogp daeml langh xedt daengl huc / Sangk douh muh qogp dogl hup peeuk/ Mus daol kgags lis mogc wanngc soik diiuv/ Mus daol gkongp behn yul/ Qinp banl meix leec laos leih leih / Oinp banl wap kgeiv daengl goul nyoul/ Lis duc bedl mant nyaengc lail louh/ Jangh kat tedp aeml kgeis touk mus daol wouc digt wouc/ Kgonv daol muix lis jangh daengc xaok daengc nyaengc xah meec egs nanh/ Naih daol qenx lis jangh kgah gaos ganv mus daol gkongp behn yul/ maenl naih banl miegs ogs map sax daol gkeip nis nas nyouc nyeeh / Nas gol nyouc nyeeh bags yangh benc / Nas bagx yangh nyanl sax daol guans senp jaih / Guans lagx duc xeengp buix waih guans kgaox jaih yaengt nyenc / Guans lagx gkuk nyouc kgah dangl yuh eengv xeengp liees nganh / Sax mags tiinp siit jaenl sank daengh daol guans jaih senp³¹

日本語訳：1、まず「鼓楼」を立て、次にトン族の村を作る/2、「鼓楼」を村の真ん中に建てる/3、立派な「鼓楼」は村の中に立てられた4、美しい「鼓楼」には欠点の一つもない/5、完璧で欠けたところは一つもない/6、シルクで囲炉裏を三周巻き/7、人々は後ろに付いて三周回る/8、世間の人が食べる前に「薩」が先に召し上がり/9、「薩」が村に来ればすべてがよくなる/10、祖先さえも助けに来てくれる/11、葬式に「石棺」に会えば喜んで鉄砲を打ち³²/12、今後は必ず貴人が現れて守ってくれる/13、そのようになれば私たちは心配がなくなる/14、すべては順調に運ぶ/15、何事も「薩」が守ってくれる/16、家の中の「黄鴨」は病気にかからない/17、鷹を遠く追い払って家鴨を籠いっぱい飼う/18、「薩」が来ないとき私たちに災難が多かった/19、今「薩」が来ているので何も心配なくていい/20、今日はすべての男と女がきたので「薩」は喜んでいる/21、顔はいつも笑顔になり/22、顔は月のように白くなって、トン族の村を守る/23、家畜を病気にならないように守り、人の無事を守る/24、牛小屋の牛を守り、羊と鶯鳥が病気にならないようにする/25、「薩」に日傘をかざしてあげなければ私たちを守ってくれない

1から7までは「鼓楼」について歌い、8から25までは人々が「薩」を信仰し、「薩」が村を守り、家畜を守り、村人を守ることを述べている。意味が不明な部分があるが、「薩」が村を訪れることで人々の生活は保障されるという信仰があり、その信仰がこの行事を支えていることが読み取れる。また1から「鼓楼」は村を作るとき最初に建てる重要な建造物であること、9と10から「薩」は祖先神とは異なること、20から「薩」は若い男女が集まってくることを嬉

しく思うこと、などが歌の内容から知ることができる。21と22だけでは「薩」が人間の形相であるかどうかは判断できないが、同じ日に「登務」に招かれた「公登」の女性チームが歌った「祭薩歌」には「薩」を女性として描いている。「…/「薩」が到来した/頭に飾った金と銀はピカピカ光り/両耳には銀のイヤリングをつけ/身には立派な服装に緑のスカート/緑のスカートを着れば万人がうれしくなる/…一は男を守り、二は女の子を守り/それから田の魚が病気にかからないように守る/次には田の稲と畑の木綿を守り/毎年食糧が余るように守る/…」³³

当日、上爪の「鼓楼大歌」は夕方の「祭薩歌」に続き、招かれた女性チームが招待に感謝する歌を歌い、男性チームと交替しながら「大歌」の掛け合いを展開していく。最後は男性チームが「恋人」という長い歌を歌うが、これは終わりを示すものではない。翌日も引き続き歌うが、「祭薩歌」と招待を感謝する歌を歌ってから「大歌」の掛け合いを展開する。最後は儀礼的な別れの歌を歌って終了する。紙幅の関係で、ここで歌の内容を紹介することができないが、ほとんどが恋に関するものであり、「薩」がその場にいることを前提にしている。

【三】「鼓楼」の建築とその周辺

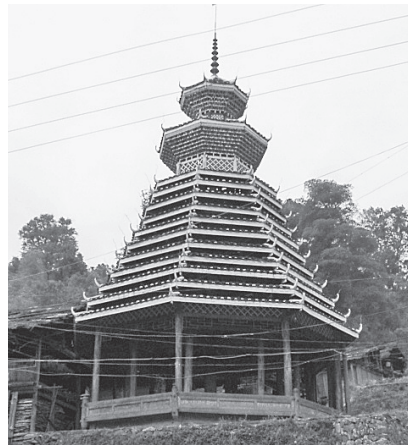
「鼓楼」はすべて杉の木を使用し、釘一つ用いずに組み合わせるだけで作り上げた建造物である。昔は経済的条件により、比較的低い「鼓楼」を建てるのが一般的であったが、現在は高い「鼓楼」を建てるのが流れになっている。「鼓楼」の建築からも様々なことを読み取ることができる。

1、岩洞寨四洲の「鼓楼」

「鼓楼」は平面八角形、立体13層になっており、青色の瓦がすべての層の屋根に敷かれている。一階部分は高さ4メートル余りで、開放的空間になっている。

「鼓楼」の入り口付近には、「募捐紀念碑」（義捐金を出した者の名前）、「功德不朽」（「鼓楼」が建てられた経緯）、「功德碑」（集金した村人の名前）、「岩洞村四洲公約」（遵守すべき決まり事）という四つの石碑が建てられている。

「功德不朽」の内容によれば、1644年にここに「鼓楼」を建て始めたという。2001年に再建したときの敷地面積は184平方メートル、高さ23.1メートルになっている。「功德碑」には宗族内の各家族（世帯主）の名前と負担した金額が書かれている。人民元の最小の単位である「分」の金額まで書かれており、村人が貧しい暮らしの中



写真③：「四洲鼓楼」（2003年筆者による撮影）

中でいかに努力して資金を工面したかが見える。筆者がこれまでの現地調査で20棟以上の「鼓楼」を見てきたが、ほとんどすべての「鼓楼」のかたわらに出資した人々の名前と金額が刻ま

れた石碑が建てられている。「鼓楼」は宗族メンバー全員の力を合わせて建てたもので、宗族のシンボルであり、同時に宗族の連帯感を表すものでもある。

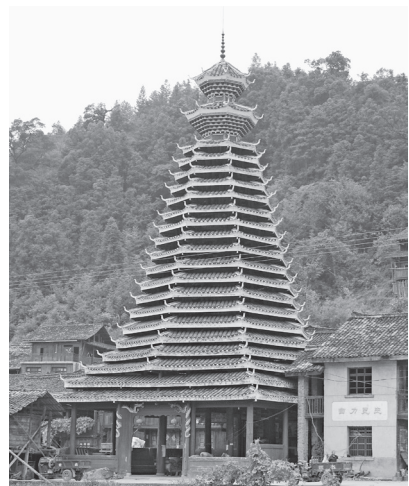
「鼓楼」の入り口の両側には、「四洲龙潭倒映十三峰潜龙在天飞龙在地」（四洲の龍池には十三の峰が映り、潜龍が天に上り飛龍が地に降りる）³⁴（右）「上下玉水纵横半里墨玉为休苍玉为神」（上下の玉水は半里に跨り、墨玉が目出度いものであり、蒼玉が神である）（左）の文字が書いた札が掛けられており、さらにその横の柱には、「独柱立中宝顶朝天弘扬民族文化艺术飞彩虹」（一本の柱が真ん中に立ち、宝頂は天に向かい、民族文化を広め、芸術は虹のように美しい）（右）「八卦重檐楼阁落地展示侗寨特色建筑虬龙」（八角形の「鼓楼」は屋根が重なり、楼阁はしっかりと聳え立つ、トン族村の特色を表し、龍を作り上げる）（左）の句が書かれている。中に入ってみれば、詩句に書いてある通り、「鼓楼」は「八卦」³⁵の形をかたどって作られていることが分かる。外側部分に八本の柱を立て、その対角線上に内側部分にも八本の柱を立てている。そして中心部分には一本の太い柱を立てている。外側と内側との柱の距離は1.5メートルぐらいで、内側の柱から中心の柱までは3メートル前後である。「鼓楼」の上の部分は梁で柱と柱を連結しているが、その梁にも次のような詩句が書かれている。

「延陵世第流万古」（呉姓の子孫は末永く繁盛する）「落成高楼享太阳」（楼阁は高く聳えて太陽の恵みを受ける）「八面湖山归眼底头」（八方の水と山はすべて眼下に収める）「心到乐仗万家」（意味不明）「吉日竖柱沾党德」（吉日に柱を立て共産党のご恩を被る）「风调雨顺安民泰国」（天候が順調であり、天下泰平である）

詩句の内容に共産党の恩恵も言及しているが、村は神の守護を受ける風水のいいところにあること、「鼓楼」は龍を象徴すること、宗族が永遠に繁栄すること、「鼓楼」から四方の山や水がすべて見えること、天候に恵まれ平和になること、などが盛り込まれている。「鼓楼」に神の加護を受け、裕福に暮らしたい人々の願いが込められていることが伺える。

2、岩洞寨沙涛の「鼓楼」

新築の「鼓楼」には彫刻を施したり、彩色画を描いたりするが、数年立つと風雨に晒されて絵画の色彩は褪せていく。四洲の「鼓楼」の絵画は褪せていて、見えなくなったが、沙涛の「鼓楼」は新しく建てられたので、2011年9月現地に行ったときにはっきりと見ることができた。下から数えて、5層までの「封檐」（軒下の板）には彩色画が描かれている。その内容を表にまとめると次のとおりである（各層の絵画は、左から右への順でまとめた）。



写真④「沙涛鼓楼」（2011年筆者による撮影）

中国トン族「鼓楼」の文化的機能について

東側	第一層	[1](不明)[2]笙を吹く[3]歌の練習[4]洗濯[5]鳥[6]鯉[7]双龍が珠と戯れる[8]魚[9]蝶々[10]草花[11]蝶々[12]蓮池の蛙[13]木の運搬[14]草花[15]木材を加工する[16](不明)
	第二層	[1]鷺鳥[2]蓮華[3]鹿と虎[4]草花[5]綿打ち[6]草花[7]木炭を運ぶ[8]火をたく[9]銅鑼と太鼓を打つ[10]「鼓楼」で歌の掛け合いをする[11]ブドウ[12]布を織る[13]樹木[14]鶏[15]猫[16]豆腐を作る[17]池
	第三層	[1](不明)[2]魚[3]コブラ[4]ヤシの木[5]鯉[6]双龍が珠と戯れる[7]コブラ(屋根の角度が変わる)[14]蓮華の池[15]琵琶歌を歌う[16]タコ[17]鳳凰が花と戯れる[18]毒[19]草花
	四・五層	[1]馬の群れ[2]庭園[3]貝[4]鳥[5]草花
南側	第一層	[1]草花[2]魚を漬ける[3]農具の修理[4]池の魚を取る[5]草鞋を編む[6]唐辛子を干す[7]鮭[8]草花[9]ご飯を蒸す[10]草花[11]歌の掛け合い(1)[12]歌の掛け合い(2)[13]菊・向日葵・花[14]酒造り[15]瓜[16]魚を取る[17]薔薇
	第二層	[1]草花と蝶々[2]家を立てる[3]草とトンボ[4]ニンニク・西瓜・向日葵・瓜[5]鯉[6]布を晒す[7]水仙とトンボ[8]男と女(1)[9]男と女(2)[10]水を汲む[11]牡丹
	第三層	[1]草花[2]猫[3]草花[4]糸紡ぎ[5]刺繍[6]牛の放牧[7]薪を取って帰る[8]草花[9]ライオン・鶴・鹿(屋根の角度が変わる)[10]蟻[11]草花[12]梅の花[13]フクロウと鼠[14]籠を編む[15]鶏と犬[16]猟師と雁[17]蓮池と蛙[18]田植え[19]圃田
	第四層	[1]魚を焼く[2]草花[3]キノコ[4]ウサギ[5]草花[6]田の耕し[7]草花[8]宴会[9]カボチャ(屋根の角度が変わる)[10]洗濯[11]機織り[12]草花とトンボ[13]笙を吹く[14]牛[15]蝶々
	第五層	[1]草花[2]投網で魚を取る[3]熟帯魚・秋刀魚[4]エビを取る[5]刀を磨く[6]大きいエビ[7]薪割り(屋根の角度が変わる)[8]草花[9]ライオン・鰐・カッパ・鹿
西側	第一層	[1]宴席[2]お酒を勧める[3]爆竹を放つ[4]宴席の終わり[5]爆竹を放つ[6]牡丹[7]布団を作る[8]薪割り[9]女性が川で髪を洗う[10]草花[11]子供の水鉄砲遊び[12]樹木[11]白鳩き[12]投網で魚を取る[13]家を立てる
	第二層	[1]猫[2]川の滝[3]鶴[4]牛(真ん中の部分は不明)[最後の前]木綿の糸紡ぎ[最後]牛・カニ・エビ・鳥
北側	第一層	[1]冬を過ごす[2]草花[3]機織り[4]網で魚を取る(次は不明)
	第二層	[1]鉄砲を放つ[2]闘牛[3]草花[4](見えない)[5]田を耕す[6]花橋(次は不明)
	その他	(隣の民家の隙間から見えた部分)[1]川辺の風景[2]客を招待する[3]樹木[4]餅を搗く[5]「鼓楼」で歌を伝授する[6]「五子碁」を差す[7]鞦韆遊び[8]筏に乗る[9]家鴨の群れ[10]蓮華の池[11]魚の群[12]エビ[13]鶏[14]草花[15]鹿[16]樹木

[1] 第一層と第二層は絵画の数が多く、人々の生活に関連する内容の比重が大きい。第三層から以上は絵画の数が減っていき、内容もトン族の人々の生活から離れていく。いくつか熱帯の植物と熱帯の動物、および海洋の動物もあるが、いずれも「鼓楼」の上層部に位置する。このような配置は、低い位置からは人々がよく見えることと関係するだろう。絵師の空間の観念を反映しただろうが、「人に見せる」ことを強く意識していることが伺える。「見る」人の中に観光客もいるかもしれないが、近隣のトン族の村からの客に対して、一つの芸術品として誇示する意識も当然あると思われる。

[2] 題材は大きく、生活の内容を反映した部分と生活の環境を反映した「自然」(枠で囲

んだ部分)の二つの部分に分けられる。生活の内容を反映した部分には人物が描かれており、トン族の生活と習わしを反映している。「自然」の部分にはトン族の生活と密接な動物、野菜、草花、木、池や景観が描かれているが、人々の生活から離れたものもある。

例えばコブラ、ヤシの木、タコ、ライオン、ワニ、カッパなどである。テ



写真⑤「沙涛鼓楼」北側の絵画の一部(2011年筆者による撮影)

レビ等を通して、トン族の人々は外部の世界を知ることになっただろう。

[3] 「鼓楼」の入口がある南側は特殊な設計がなされている。第一層の中央に「双龍が珠と戯れる」様子を描き、珠を中心に、柱に付けられた彫刻の双龍と対応している。双龍が珠と戯れる場面は中間に位置し、両側の絵画の内容は左右が対応している。第三層の左側は「双龍が珠と戯れる」図を配置して、右側は「双鳳が花と戯れる」図を配置している。「双龍が珠と戯れる」は中国語で「双龍戯珠」といい、古くから縁起物になっている。おそらく漢族文化の影響だろうが、トン族は昔から龍蛇を信仰する民族であり、根底には古来の信仰があると見ていいと思う。

第四節 結び

前節では、「鼓楼」で行われた「祭薩」行事と「鼓楼」で歌われた歌、及び「鼓楼」建築を中心に「鼓楼」の文化的機能について考察を行った。この考察を通して、「鼓楼」が現在のトン族村の生活の中でどのような役割を果たし、どのような心意(意識と感情)が寄せられているかがわかる。整理すると次のようになる。

- [1] 「鼓楼」は「薩」を祭る行事の一部である「踩歌堂」の場になっている。
- [2] 「鼓楼」を誉めることは、村人を褒めることである。
- [3] 素晴らしい「鼓楼」を建てることは村の「名声」に関係する。
- [4] 「鼓楼」は龍を象徴しており、龍を呼び寄せる仕掛けである。
- [5] 村を作るとき、最初に「鼓楼」を建てる。
- [6] 「薩」を祭る目的は、村・村人・家畜・農作物を守ってもらうためである。
- [7] 「薩」が村に来れば全てのことがいい方向へ進む。
- [8] 「薩」は女性の性格を持ち、綺麗に着飾るのが好きである。
- [9] 村の全ての男女が「薩」を迎えに来れば、「薩」は喜ぶ。

[10]「鼓楼」は宗族全員の力で建てられ、宗族のシンボルであり、連帯感の表れである。

[11]「鼓楼」を建てたことで村は神々の加護を受け、幸運を呼ぶ。

[12]「鼓楼」は神が降臨する場としてふさわしい。

[13]「鼓楼」は外部の者に村人の生活・文化を誇示する手段になっている。

[14]「鼓楼」を誉めるため、「鼓楼建築叙事歌謡」と「生産叙事歌謡」を用いている。

上の内容はさらに、①「鼓楼」と「薩」の関係、②「鼓楼」と龍との関係、③「鼓楼」に寄せる村人の心意、④「鼓楼」を誉める形式、の四つに集約できる。

「鼓楼」と「薩」の関係を見ると、まず「薩」の性格について知る必要がある。「薩」は守護神であり、トン族の村であれば、必ず祭る。「薩」は祖母の意味でもあるので、研究者の中では、一般的には祖母神として認識されている³⁶。また古代の女性英雄「杏妮 (seeup nyuix)」にまつわる伝説と結びつける場合もある³⁷。しかし筆者の調査によれば、「薩」は、丁重に祭れば村を守ってくれ、失敬なことをすると祟りが起こるといふ「崇り神」的一面も持っている。幾つか事例を挙げよう。



写真⑥四洲の「薩屋」(2004年筆者による撮影)

○「薩」は一般的には「薩屋」に祭られ、日常の「薩屋」の管理は特定の者に任されている。

○2012年、岩洞寨と黄崗寨で調査したとき、「薩屋」の中の様子を見ようと近寄ると、いつも村の案内者に止められた。

○2004年、四洲の「薩屋」近くの大木の枝が折れ、道を塞いでも、それを取り除く人がいなかった。勝手に動かすと何かが起こると案内していた「寨老」呉徳標が言った。

○2004年、洪州郷平架寨出身の楊勝娟 (通訳) は自分の兄の経験として、「薩」に失敬なことをしたので、歌の掛け合いに負けたことを話してくれた。

○2012年、呉良明は岩洞寨で起きた事件として、二人の話をしてくれた。いずれも別の村で歌の掛け合いをしたときに起きたことである。一人は訪問先の村の「鼓楼」にある、座ってはいけない場所 (恐らく「薩」の居る場所だろう) に座ったので、その日に病気になり、後に病気が重くなって、結局は亡くなった。もう一人は最初の「祭薩歌」を歌わずに、途中から歌の掛け合いに参加したので、その村で倒れ、数日経ってやっと回復した。

「鼓楼」と龍との関係は非常に強い。多くの場合、風水と関係する。龍は水をもたらす存在であり、水はまたトン族の生活で重要な位置を占めている。トン族の村はいずれも川沿いに建てられ、家の向きも南ではなく、川に向けて建てられている。岩洞寨の場合も同じで、川の両側に家が建てられ、さらにその両側に村を囲む形で二つの山に挟まれている。その二つの山は、

二匹の龍であるといわれ、村の西を南北に走る山は雄の龍であり、村の東を東西に走る山は雌の龍であるという。そのような環境の中に「鼓楼」があるのである。

「讚鼓楼」の歌を歌い、「鼓楼」を褒め、村人を誉める場合、堂安寨では「鼓楼」を建築する過程を詳細に述べ、岩洞寨では生産叙事歌謡を歌っている。これが「鼓楼」の性格を把握する鍵になる。生産叙事歌謡は完成した生産物を誉めるほか、生産を開始する前、神の前でこれから展開する生産活動が順調になるようにと、予祝するためのものでもある。岩洞寨の「讚鼓楼」も豊作を予祝するために歌われたのに違いない。「鼓楼」は客を迎え、客と歌の掛け合いをする場所であるが、その行事には同時に「薩」も招かれる。「鼓楼」はいわば神と人間がともにいられる場である。掛け合いの歌は村の人々に聞かせるだけでなく、その場に訪れる神にも聞かせるものである。岩洞寨の「讚鼓楼」はまさに神の前で生産過程を歌い、神の加護を受けることを願っているのである。

トン族は宗族で村を作って暮らすので、ほかの宗族と親睦関係を持ち、婚姻関係を結ばなければならない。ほかの宗族と交流をする場は「鼓楼」である。それゆえ、「鼓楼」は村の「名声」とも関係し、立派に建てれば、村人は誇りを持って、堂々と周りの村と対面できるわけである。「鼓楼」は村の生活において、単に「祭薩」と「鼓楼大歌」の場を提供しただけではない。以上の考察を通して分かるように、「鼓楼」には村人の信仰・観念・世界観・願望など、様々な精神的要素が凝縮している。「大歌」が非常に発達していることと、宗族で村を作って暮らす生活形態がほとんど昔と変わっていないことを併せて見ると、男女の婚姻を成立させることが、「大歌」の本来の目的であり、「鼓楼」の発生を促した一因ではないかと思われる。

注：2011年と2012年の三回にわたるトン族地域の現地調査は、日本文部科学省の科学研究費助成事業（基盤研究C・平成23年度～25年度・「中国トン族歌謡の実態と伝承についての研究—[歌師]の役割を中心に—」・課題番号：23520446・研究代表者：牛承彪・連携研究者：櫻井龍彦）による研究で行われたものである。

注

- 1 2003年10月、2004年9月・10月に各一回現地調査を実施。2011年～2012年は科学研究費による研究の関係で、2011年9月、2012年1・2月、2012年7・8月、三回の調査を実施した。
- 2 2008、中華書局。
- 3 卷四・「封置鼓楼」の内容は次の通りである。「州に盗賊が多いため、崇は各村に楼を一つ建て、楼に鼓を一つ吊り下げるようにさせた。盗難事件が発生すれば、槌で鼓を「乱撃」する。初めてこれ聞いた諸村の者は、自分の村の鼓を一通り「搗鼓」（鼓を叩く）する。次に聞いたものは二回「搗鼓」して、これを節とする。わずかの間に音は百里まで広まり、要のところで待ち伏せをすれば、捉えられない

- ことはなかった」(拙訳)。
- 4 「鼓楼」の呼称、及び分布地域などについて、『中国侗族鼓楼』(楊永明・呉珂全・楊方舟：2008、广西民族出版社)を参照するほか、貴州省黎平県岩洞の歌師呉良明・呉金燕の助言を頂いた。
 - 5 このほか、「公」「堂瓦」「堂卡」と呼ばれた地域もあったといわれているが、その分布地域が不明である。漢音で示された呼称については、今後トン音を確認したい。
 - 6 『四庫全書』に収録。原文の内容は次の通りである。「羅漢樓、巨木一本を地に埋めて建てた独脚樓。高さは百尺あり、五色の瓦を焼いて屋根に葺く。これを眺めれば錦の鱗のようだ。男は登って歌を歌い、飲食する。夜帰れば、攀じ登って上に寝て、これを自慢とする」(拙訳)。
 - 7 原書は紛失し、写本が多く残されている。本稿では『百苗図抄本匯編』(楊庭碩・潘盛之：2004、貴州民族出版社)、諸写本を整合した研究書『百苗図疎証』(劉鋒：2004、民族出版社)、『侗族文化的標識一鼓楼』(余学軍：2012、黒龍江人民出版社)を参考にした。
 - 8 原文の内容は次の通りである。「(鼓楼は)清江、八寨にある。付近の各村は高いところに高さ数階の樓閣を建てる。そして長さ一丈ぐらいの一本の木の中をくりぬいて(鼓を作り、樓閣の)上部に吊るす。その名は長鼓という。不平なことがあれば、樓閣に登ってこれを叩く。各村の人々が聞いて、皆長い槍と刀を持って楼の下に集まり、寨長の裁断を聞く。事のある家は牛と酒を用意して衆人を労う。鼓の音を聞いても来ない場合、牛一頭を罰し、公用のために使う。理由なく鼓を弄ったものは、牛一頭を罰し、公用のために残す」(拙訳)。
 - 9 余未人『走近鼓楼』(2001年、貴州人民出版社)。黄才貴『貴州民族文化論叢』(2009年、貴州人民出版社)等。
 - 10 『中国侗族鼓楼』に写真二枚収められている (p 22・24)。
 - 11 『中国侗族鼓楼』掲載の統計表による。行政区域で分けると、広西チワン族自治区237棟(龍勝県107・三江県127・融水県3)、貴州省233棟(黎平160・從江県57・榕江県11棟・鎮遠県1・錦屏県2・凱里2)、湖南省197棟(通道県193・城步県1・芷江県1・新晃県2)、湖北省1棟(宣恩県)になっている。筆者が調査地の一つとしている岩洞鎮の鼓楼は2棟がこの表に記録されているが、これは形が比較的整えたもので、そのほか2棟あり、新しく建てられたのは3棟あるので、2012年現在は7棟ある。したがってトン族地域全体の数は673棟を遥かに超えるものと推測できる。
 - 12 「宗族」とは、同じ先祖をもつ幾つかの大家族の連合を指す。一般的傾向として、トン族の地域では、小さい集落が一つの宗族からなり、大きい集落はいくつの宗族で構成する場合が多い。また「宗族」を構成する大家族は「房族」という。この二つの概念は本来漢族地域で使われるものであるが、トン族の中でも使っている。
 - 13 1986年の調査。『貴州「六山六水」民族調査選編・侗族編』に収録(貴州省民族事務委員会・貴州省民族研究所編：2008、貴州民族出版社)。
 - 14 石開忠・馮玉照等：2009、貴州民族出版社。
 - 15 堂安の調査は2004年9月27・28・29日に実施した。調査対象者は、薩建良(女、73歳[2004年現在。以下同じ])、Dei艶葵(女、72歳)、楊勝娟(女、19歳)、陸月香(女、20歳)である。2012年2月29・

- 30・31日に再び現地に訪れ、「薩」祭りの現場調査を行った。
- 16 漢族地域では、村を守る神を「土地公公」（土地お爺さんの意）と呼ぶので、この信仰は漢族の影響を受けたものと思われる。
- 17 調査対象者が述べた歌詞を筆者がピンインを用いて記録し、通訳の楊勝娟を通して、Dei艶葵（歌師）と内容を確認しながら漢語訳した。日本語訳はこれに基づいて行ったものである（拙訳）。その後ピンインによる記録は呉良明にトン語に書き直してもらった。
- 18 「ジャンリヤン」「ジャンメイ」は大洪水の後、生き残った兄妹で、二人の結婚によって人類が誕生し、トン族の祖先が誕生したとされている。
- 19 「六洞」は昔の「款」で結ばれた六つの村のこと。現在は堂安寨のほか、已倫寨・紀堂寨・登杠寨・登江寨・厦格寨・地坪寨・肇興寨がある。
- 20 風水や占いに長けている人を「先生」と呼ぶ。
- 21 從江県・榕江県・黎平県の隣接地域にある、昔「款」によって結ばれた九つの村。
- 22 近隣の「龍額」付近の地名。
- 23 近隣の苗（ミャオ）族が居住する地域の地名。
- 24 歌の日本語訳は筆者によるもの。論述のため句ごとに番号を付けた（以下同じ）。
- 25 「一定の形式をもって、生産過程を順次述べる歌」を「生産叙事歌謡」と呼ぶ。
- 26 2003年10月15～17日に調査を実施。調査対象者は薩呉雲嬌（女性、歌師、75歳[2003年現在。以下同じ]）、呉連英（女性、51歳）、呉建梅（女性、50歳）、呉培四（女性、50歳）、呉培玉（女性、37歳）、呉鳳香（女性、36歳）、呉銀香（女性、41歳）、呉桂珍（女性、35歳）、呉德標（男性、70歳、「寨老」、「活路頭」）。翌年の2004年9月30日と10月1日に補足調査を実施。その時の調査対象者は前回の薩呉雲嬌と呉德標。本節における基本状況に関する内容はこの二回の調査の聞き取りによるものである。2011年9月18～22日、2012年1月23～29日、2012年7月30日～8月1日にまた現地調査を行ったが、2012年1月の場合は実際に行われた行事についての現場調査である。
- 27 岩洞では「薩」を祭る場所を「薩の家（yanc sax）」と呼ばれる。ここでは「薩屋」と表記する。
- 28 歌の文字起こしと漢語訳は、2003年当時、調査地に滞在していた中国社会科学院の鄧敏文教授に依頼した。日本語は拙訳。
- 29 龍寨と四洲寨の間をつなげる道の名前。
- 30 植物の名前。初春に花が咲く。
- 31 歌の文字起こしと漢語訳は、岩洞小学校教師の呉良明（歌師）に依頼した。日本語は拙訳。
- 32 「石棺」は地層に自然にできたもので、トン族の風水観念では最高の墓地とされている。そのような場所を見つければ、喜びの表れとして鉄砲を放つのである（高さ20センチ、直径5センチ程度の鉄の容器に火薬を詰め込み、地面において火をつける）。
- 33 村全体の「祭薩」行事が終わり、四洲へ向かう途中、「登務鼓楼」を通ったので、「祭薩歌」を歌う場面を観察することができた。紙幅の関係で、原文は省略（歌の文字起こしと漢語訳は呉良明に依頼した）。

中国トン族「鼓楼」の文化的機能について

34 拙訳。以下も同じ。

35 「八卦」は神の霊力と深く関わる図形である。右は「先天八卦図」である。

36 『中国村寨文化』（呉浩：2004年、民族出版社）。

37 『没有国王的王国』（鄧敏文・呉浩：1995年、中国社会科学出版社）。



(にう・ちえんびやお 国際言語学部准教授)